

## 商業科（ソフトウェア活用）学習指導案

指導者

- 1 履修単位数 3単位
- 2 実施日時 令和7年11月19日（水） 第6時限
- 3 学 級 26HR（19名）
- 4 使用教科書 ソフトウェア活用（実教出版）
- 5 単 元 名 第3章 表計算ソフトウェアの活用  
第1節 表計算ソフトウェアを用いた情報の集計と分析
- 6 単元設定の理由 (1)生徒観 積極的に人前で発言する生徒は少ないが、与えられた課題に真面目に取り組むことができるクラスである。
- (2)教材観 例題が多く記載されており、操作方法や実行結果が丁寧に解説されているため、視覚的にも大変わかりやすい教材となっている。
- (3)指導観 9月に実施された全商情報処理検定において、クラスの半数が1級を受験している。残り9名のうち2級に5名が合格し、クラスとしては2級程度の関数は理解していると認識している。しかし、実技で扱う場合と筆記問題で出題された場合とで理解力の差があるように感じる。その原因は実技を『感覚』や『いつものパターン』で解いているため、真の理解につながっていないと考える。そこで、筆記で出題された場合でも問題の意図を捉え、適切な答えを導き出せるように、自分たちで問題を考えることで理解を深めることができるように指導する。
- 7 単元の目標 (1) 表計算ソフトウェアの活用について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付ける。
- (2) 企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、表計算ソフトウェアを活用して、情報を集計・分析するとともに、その結果を表現し、評価・改善する。
- (3) 表計算ソフトウェアの活用について自ら学び、情報の効率的な集計・分析と分析結果の適切な表現に主体的かつ協働的に取り組むこと。

### 8 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
表計算ソフトウェアの活用について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、表計算ソフトウェアを活用して、情報を集計・分析するとともに、その結果を表現し、評価・改善できている。	表計算ソフトウェアの活用について自ら学び、情報の効率的な集計・分析と分析結果の適切な表現に主体的かつ協働的に取り組んでいる。

### 9 指導と評価の計画

- 第1次 統計の基礎 . . . . . 2時間
- 第2次 情報の集計 . . . . . 8時間（本時7／8）
- 第3次 情報の分析 . . . . . 3時間
- 第4次 シミュレーション . . . . . 2時間

	ねらい・学習活動	評価の観点			評価規準・評価方法
		知	思	態	
第1次	ビジネス活動における、統計の活用方法やデータの調査方法、データの種類について学習する。	◎			ビジネス活動における統計を活用することの有用性、データの調査方法および種類について理解している。 【ワークシート】
第2次	条件付き関数（COUNTIFS 関数、SUMIFS 関数、AVERAGEIFS 関数）について学習する。 表計算ソフトウェアにおける複数シート（マルチシート）の意義と有用性について学習する。	◎	◎		条件付き関数の機能と書式を理解するとともに、複数のワークシートを同時に作成し、データ集計やワークシートを操作し、関数等を活用した表を作成することができる。 【ワークシート】
第3次	代表値や代表値を求める関数について学習し、表計算ソフトウェアを利用し、データ分析の資料となる図や表の作成方法について学習する。			◎	代表値や代表値を求める関数を活用し、表計算ソフトウェアを利用し、データ分析の資料作成や分析する演習に積極的に取り組むとともに、技術を習得しようとしている。 【ワークシート】
第4次	表計算ソフトウェアを活用したシミュレーションの方法を習得する。また、一つの制約条件で最適解を求める方法や様々な条件下での解を比較する方法について学習する。	◎	◎		ゴールシークやシナリオの機能を理解するとともに、表計算ソフトウェアを利用して最適解を求め、複数の結果を比較し、適切に活用できる。 【ワークシート】

- 10 本時の指導目標
- ・条件付き関数の機能と書式を理解し、目的に応じて活用する力を養う。
  - ・複数のワークシートを用いたデータ管理・集計を通じて、実務に即した情報処理能力と課題解決に活かす力を育成する。

11 本時の展開

時間 (分)	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価方法
導入 (5分)	・前時の復習と本時の学習内容の確認をする。	・条件付き関数とマルチシートの復習を行い、本時の学習目標を明確にする。		
展開 (40分)	・統計データを使って自分たちで作成した問題を他のグループに解いてもらう。 (2問解答し、個人で考える時間7分、グループで話し合う時間8分)	・自分たちが作成した問題をお互いに解き合いをさせる。 ・自分が考えた解答とグループの他のメンバーが考えた解答への経緯の違いから、解答へのアプローチの仕方が複数あることを	・条件付き関数の機能と書式を理解し、データ集計やワークシートを操作し、関数等を活用した表を作成することができる。  【知識・技術】	・評価シート (ワークシート)

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループが作成した問題について評価シートに記入する。</li> <li>・他のグループが作成した問題についての評価を発表する。</li> </ul>	<p>理解し、共有させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループが作成した問題について、良い点・改善点を考えさせる。</li> <li>・自分たちならどのように改善するかという視点で考えさせる。</li> <li>・改善点だけでなく良い点も必ず発表させる。</li> </ul>		
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の内容を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちが予想した結果と実際の結果を比較し、改善点を考える。</li> </ul>		

(使用データ引用サイト名、URL)

徳島県年齢別推計人口

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/statistics/year/nenrei/>

気象庁：過去の気象データ検索

<https://www.data.jma.go.jp/stats/etrn/index.php>

統計局ホームページ/統計 Viz/社会生活基本調査 (生活時間)

<https://www.stat.go.jp/viz/shakai/index.html>